

# WATER

&

vol. 36

# THE YANBA

2022年12月12日発行

## 今後も「水問題」の活動に 取り組んでいきます

この3年のコロナ禍で、対面での総会や学習会・見学会等の活動ができない中で、書面での議決により、本年度の活動および予算を認めていただきありがとうございました。会の活動へのご賛同や今後の水問題への取り組みについてのご提案等も寄せていただきましたので、参考にさせていただきます。今、「流域治水」について学習を進めているところです。気候変動により、想定を超えた集中豪雨帯が発生し、ダムは役に立たなくなり、その上、決壊すれば大災害を招きます。ダムに頼らない利水・治水をめざしていきましょう。

(共同代表 武笠紀子)

## ～ 8月7日 嘉田由紀子さん講演会報告～ 先人の知恵に学ぶ治水と利水

大野博美

オンライン講演会は、1300年前から現在までの治水の歴史から始まった。嘉田さんは「飲水思源(いんすいしげん)」という言葉を紹介した。「水を飲むときには水の源を考える。上流は下流を想い、下流は上流に感謝する」という意味とのこと。

太古の昔から、川の上流と下流、右岸と左岸では「水争い」や、「水害時どちらを守るか」という紛争が絶えなかった。ライバル(rival)の語源は、リバー(川river)だとか。改めて驚く。

嘉田さんは「飲水思源」を実践するため、滋賀県知事時代、琵琶湖を水源とする京都、大阪、兵庫の県知事に呼び掛け、関西広域連合を結成。「ダムに頼らない治水・利水」を提唱した。当時はあの橋下大阪府知事も、

メンバーとなってダム反対の発言をしていた。

さて、講演会直前、大災害が嘉田さんの地元滋賀県で起きていた。8月5日、大雨で滋賀県長浜市の高時川が氾濫。幸いにも人的被害がなかった理由は、高時川に先人の知恵『かすみ堤』があったからだと言う。

かすみ堤とは、堤防を所要所で切ったり、低くして洪水のときに水を逃がす仕組みであり、田んぼが遊水池となって、人家集落を守っている。これこそが嘉田さんの提唱する「流域治水」そのものだった！

嘉田さんが強調する「先人に学べ」が、まさか講演会直前に現実化するのは… 千葉県でも、利根川やその支流の治水に応用できないか、思いを巡らせた。

緩流河川型かすみ堤の図



A- 通常時, B- 洪水時, C- 洪水後



8月5日 滋賀県高時川の氾濫。赤丸の箇所がかすみ堤。溢れた水が田んぼに流れ出ている。

## 水問題とハッ場ダムを考える千葉の会

代表：武笠紀子・大野博美

住所：〒270-0007 松戸市中金杉 4-71-2

TEL：090-9365-9608 (武笠)

WEB：「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」で検索してください。

### ●会費納入のお願い

(一口 1000 円/年)

会費振込先：00120-5-426489

\*会計年度は1月から12月末まで

# 田んぼダム

## 佐倉市でも始まりました

川口えみ

豪雨の際、田んぼに水を溜めて、河川へ一度に流入しないようにする「田んぼダム」の取り組みが全国に広がっています。なんと、私の住む佐倉市でも、取り組みが始まりました。

### 飯田地区で田んぼダム スタート！

佐倉市の飯田地区で、田んぼダムの取り組みを始めたとのことで、お話をうかがいました。

2019年9月の台風や、10月25日豪雨（房総豪雨）の被害がありました。それを受け、飯田地区の飯田環境保全会では、今後、なんとか被害を抑えることができなかと話し合いを重ね、今年7月から田んぼダムをスタートすることにしました。

田んぼの排水口に、上部に丸い穴を開けた塩化ビニール製の排水管等を追加し、雨水を一時的に田んぼに

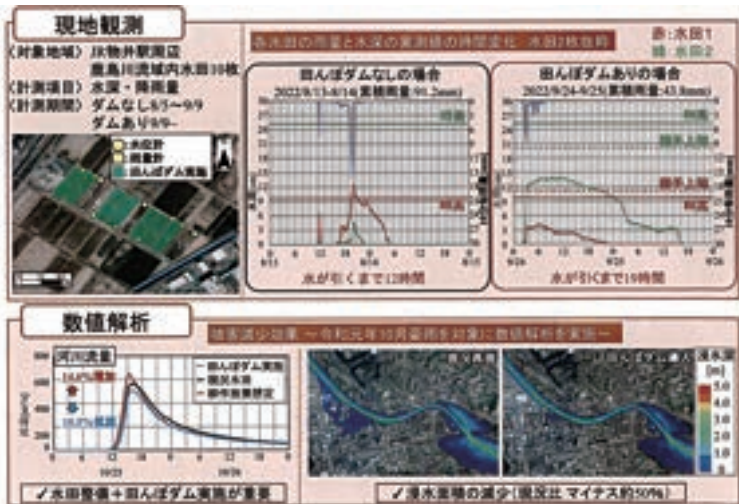
溜めて、排水量を抑制しています。

設置時期は、5月～10月末の梅雨時期と台風シーズン。6月の中干や収穫前の落水時には取り外すなど、各地域で稲の生育や営農活動に支障のない範囲で取り組んでいます。

メンバーは、「現在使用している排水口にセットするので簡単にできる。生育に影響がないことを見てもらい、広がってほしい」と話していました。

### 学生が実証実験

東京理科大学の学生が、8～9月にJR物井駅周辺、鹿島川流域内水田10枚で、塩ビ管の下端に穴を開けた田んぼダムの実証実験。まわりの田んぼすべてで田んぼダムを実施した場合、房総豪雨を対象に数値解析すると、浸水面積は50%減少すると公表しました。



### 編集後記

いつも「水問題とハッ場」通信を読んでいただきありがとうございます。今回の通信はいつもよりボリュームが少ない！とのお叱りの声は真摯に受け止めます。

来年4月に統一地方選挙を控え、佐倉市も市長選・県議選・市議選のトリプル選挙となっており、すでに動き出しています。私たちが取り組んできた不要なダム建設、

水道の広域化・民営化等のさまざまな水問題を訴えていくためには、首長や県と連携し、同じ考えの議員を増やし、しっかりと問題点を発言・発信していかなければなりません。選挙終了後には、さらにパワーアップした会報をお届けしたいと考えています。

(松島こすえ)